



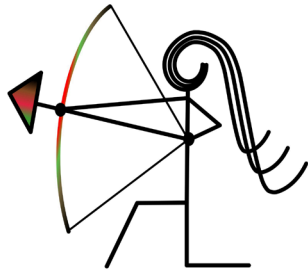
千代田区障害者就労支援センター通信

ちよだジョブコーチャージャーナル

働くことを応援する

No.61

～一人一人を大切に、共に成長・変化していく～



Team Artemis

メンバーがデザインしたチームアルテミスのロゴ



チームアルテミスの職場の風景

出光興産株式会社

大手町に本社を構える出光興産株式会社では「チームアルテミス」という障害者雇用の就労チームがあります。2019年に昭和シェル石油株式会社と経営統合し、2020年12月に本社移転したことをきっかけに新しく障害者チームを作り、本格的な取り組みをスタートさせました。設立当初は10名ほどだったメンバーも、現在は25名に増え、郵便の仕分け、清掃、スキャン、事務備品の補充、パソコン入力、PDF化など日々様々な仕事に取り組み、活躍しています。

また、一人一人が成長できるよう、面談の実施や目標の共有のみならず、希望者はチームから卒業し、他部署に配属して、長く働き続け、成長し続けられるような仕組みづくりにも取り組まれています。今回は出光興産株式会社人事部D&I推進より、課長の大川氏、折林氏、飯泉氏にお話を聞きました。

● 障害者雇用とダイバーシティインクルージョン

障害者雇用は会社の社会貢献という側面だけではなく、社員への良い影響があると話されます。社内ではカフェテリアの清掃をしていたり、各フロアで文房具の補充をしている姿を見かけたり、挨拶をする機会もあります。このように障害のある方と一緒に過ごす時間が少しでもあることは、いつもと違う視点で気づきを得る機会が生まれ、そのことが新しい製品やサービスを生み出すアイデアのきっかけになると信じています。また、チームアルテミスから各部署へ巣立ってほしいという思いがあります。そのため、障害の有無に関わらず、一緒に仕事をする職場を作り、イノベーションにつなげることを目指しています。障害のみならず、

ジェンダー、年齢であっても自分と違う人と同じ場において仕事をする事で得られる刺激が大事だと考えています。

● 採用から定着、成長できる機会へ

チームアルテミスのメンバーを採用する際には2週間の実習を行い、マッチングを図っています。また、チームで仕事をしていくため、スキルのみならず、相手を思いやる気持ちがある方を採用しています。当社で長く働いてほしいと考え、就労定着に力を入れています。メンバーと指導員で、どう成長していきたいのか話し合ったり、課題点の確認をしたりしています。そのため、今年度から一人一人のファイルを作成して、全指導員が閲覧できるようにし、目標やチャレンジしたいこと、どうなりたいたいのかを共有できるような取り組みを始めました。

さらに、成長の機会として、チームアルテミスでスキルを磨き、卒業して他部署へ配属する仕組み作りにも取り組まれていると話されます。現在、チームアルテミスから卒業予定のメンバーが1名います。このことをきっかけに自分も同じようになりたいと思うメンバーが出てきています。他部署への配属にあたっては、事前に受け入れ部署で何度か仕事をし、受け入れ部署のメンバーや環境に慣れてもらうようにしています。

仕事の切り出し方も工夫しています。依頼があった仕事を行うだけではなく、仕事にかかった時間も計測しています。その業務に1人分の仕事量があると判断した場合には、チームアルテミスへの業務依頼ではなく、その部署に直接メンバーを配属できないか相談しています。その部署には、障害のある方が実際に仕事をしている様子を

見てもらうこともあります。他にもメンバーからできる仕事のアイデアを出してもらったり、仕事の依頼を社内報で呼びかけたりしたこともありました。今回の配属で実績を出し、他部署にも広がってほしいと話されます。

● これからの障害者雇用

これからは定着、成長に時間を割くことが必要と考えていると話されます。そのためには制度を整え、メンバーの希望とマッチできるようにすること、社内に理解を広めていくことが求められると思っています。実際に障害のある方と接することで新しい発見をする社員が増えていくと、会社全体にも理解が広がっていくのではないかと考えています。それが少数派への理解にもつながると思っています。

● 取材を終えて

出光興産株式会社ではキャリア形成支援の視点を大切に、障害者雇用に取り組んでいます。一人一人との対話を大事にしていること、成長の機会の仕組みづくり、仕事の切り出し方が印象的でした。チームアルテミスの中での仕事だけでメン

バーの一人一人のキャリアを考えるのではなく、チームアルテミス卒業して他部署へ配属する道を作り、成長できる機会があることでやりがいへつながっていくように感じました。また、ダイバーシティインクルージョンの視点からもこのことが本人の成長だけではなく、会社へ大きな影響を与え、成長へつながっていくのではないかと思います。

(インタビュー・構成：村田 梓)



【会社概要】

出光興産株式会社

所在：東京都千代田区大手町一丁目2番1号

燃料油、潤滑油、アスファルト、石油・ガス開発、再生可能エネルギー、石炭、石油化学、電子材料などの事業をグローバルに展開しています。

<https://www.idemitsu.com/jp/>

EVENT × NEWS

令和5年度第1回地域交流会 難病のある方の「働く」を考える ～難病理解と共生を目指して～



- atGPジョブトレお茶の水
写真左 鹿島 早織 氏
- 大東コーポレートサービス
写真中央左 草刈 大暉 氏
写真中央右 西岡 幸智 氏
- 東京都難病相談・支援センター
写真右 野島 ちひろ 氏

今回の地域交流会は三部制とし、第一部講演では、野島氏より難病や難病の方の支援の基礎知識について伺いました。第二部講演では、西岡氏より大東コーポレートサービスでの障害者雇用の取り組みや難病の方だけでなく就労困難者への採用としてソーシャルファームについて伺い、草刈氏よりRPA業務の紹介、自身の病気との付き合い方、入社当初から今に至るまでの経過、今後の目標について伺いました。草刈氏から難病の当事者へ伝えたいことは「『難病だからと言って諦めない』こと、一日でもよいので前に進むことを心掛けることです。」と力強く語っていました。第三部座談会では事前にいただいた質問から難病の方への配慮事項について、手帳を持つことができない、福祉政策の対象にならない方への支援についてお聞きし、登壇された皆様は難病患者一人一人に寄り添った支援が大切であり、今後の就労支援の広がりを期待していますと語っておられました。

▶ コラム 人生キャリアアップにて候。 武士から和菓子職人へ転職!?

千代田区に流れる神田川は大勢の人が関わり、現在の姿があります。徳川家康の家臣に大久保忠行という武将がいました。彼は戦いの最中に怪我をしてしまい、歩くことが困難になってしまいました。そのため戦に出ることを免除されましたが、彼は和菓子を作り、三河餅と呼ばれる餅を徳川家康に献上し、喜ばれたそうです。その後、江戸に移ることになった家康は当時の江戸が現在の日比谷公園付近まで海であったため、海水のない水源の整備を忠行に命じました。そして忠行は小石川付近から神田の方へ水道を造り、神田川の元となる小石川上水を引きました。その功績から家康は忠行に主水の名前を与えます。ただし水が濁るとよくないという理由から「もんど」から濁点を外した「もんと」と名乗るように伝えたそうです。その後、大久保忠行改め大久保主水は武士を退職し、大久保主水の名で町人となり和菓子屋を開きます。とはいえ町人向けではなく御用達町人と呼ばれ、帯刀を許されて幕府に和菓子を献上することを本業とする徳川家お抱えの菓子司でした。自分の障害を受け入れ、どのようにすれば力を発揮して幕府に貢献できるか柔軟な考えの方だったのかもしれませんが。

参考資料：「御実記」、「大久保主水三河餅献上の図」大久保家蔵、

虎屋文庫 編著『和菓子を受した人たち』山川出版社



就労支援のお問い合わせ

電話：03-3264-2153 FAX：03-3556-1223

E-mail：chiyoda.syuroushien@city.chiyoda.lg.jp

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階

発行：千代田区障害者就労支援センター 2023年第61号（令和5年9月4日発行）

取材協力：出光興産株式会社

毎回、働く障害のある方やその職場を紹介していきます。次号もご期待下さい。